
魔法少女リリカルなのは ~ 転生じゃない? なら憑依?? ...え、どっちでもない! ? ~

zelga

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは　↳ 転生じゃない？なら憑依？？…え、どっちでもない！？！

【Nコード】

N1004Z

【作者名】

zeilga

【あらすじ】

ある日、俺は突然意識を失った……

そして目が覚めると目の前にはきれいな女性が土下座をしていた！！
「すみません！私のせいであなただは死んでしまいました！！」

「…はい、テンプレですね。」

と、いうわけで俺はなのはの世界へ行くこととなった！……が、
「…あ、すみません。間違えてしまいました！ てへっ」

「…は？」

さて、いきなり前代未聞の事態！！（笑）

転生ぽいけど転生じゃない！？ 憑依ぽいけど憑依じゃない！？
そんなこんなで、

魔法少女リリカルなのは

）転生じ

やない？なら憑依？？…え、どつちでもない！？）

始まります！！

作者は初心者で、この作品は処女作です。

その1（前書き）

この作品は

キャラ崩壊 が時々おこり

原作ブレイク をします。

それはイヤだという人は見るのをオススメしませんよ？
それでもいいよという人は是非見ていってください！！

で

は、

魔法少女リリカルなのは ～転生じゃない？なら憑依？？…え、ど
つちでもない！？～

始まります！！

その1

?「いや、やっとなのは借りるが出来たな!」

そう言いながらTS TAYAから出てきた俺

?「楽しみだな、早く帰って!?!」

すると突然頭に衝撃を受けて倒れてしまった

?「何なんだよ、急に……てあれ?意識が……」

だんだん意識がぼやけてきてる……

?「はは……嘘だろ?、まさか……なのはをやっと借りれた瞬間に死ぬとか……」

どっせなら……どっせなら……!!

?(なのは見てから死にたかったよおおおおお!!!)

そして、俺の意識はそこでとぎれた

その瞬間、俺の体が異常なまでに光っていることに気づかず……

そして、この瞬間【俺】という存在はこの世界か

ら消えた

その1（後書き）

zeilga「いや、ついに始まったな!!」

?「始まったな!!、じゃねえよ！俺名前すら出てきてねえじゃねえか!？」

zeilga「大丈夫だって！、そのうち出すから!」

?「そうか、なるべく早く出してくれよ?いつまでも」?「はイヤだからな?」

zeilga「わかってるって、ちゃんと出すからな!...多分」

?「おい、今最後に不吉なこと言ってるじゃないか!？」

zeilga「はい、というわけで

魔法少女リリカルなのは　↳ 転生じゃない?なら憑依??...え、どつちでもない!??　が始まりました!、読者のみなさん、感想とか、できればたくさん下さいね!

それではさようなら!!」　ガチャッ（部屋から出ていく音）

?「おい!、無視するなよ!　...あ、これからあの作者^{アホ}の作品をよろしくな!

てか、待ちやがれえええ!」　ガチャ!（部屋から急いで出

ていく音）

その2(前書き)

連・続・投・稿　です!!

あらすじを入れることにしたので追加修正しました

その2

前回のあらすじ!!

なのはのDVDを借りた

頭に衝撃がはしった!

おれ、オワタ＼(^O^)/

~~~~~

?「.....ん?」

俺は意識が戻った、戻ったは良いのだが…

?「…どこぞ?」

そう、今言ったとおり俺が今いる場所は俺が倒れたあの道じゃな  
かった

白、白、白 白一色に染まっている空間、そこに俺は“浮いて”  
いた

？「て、なんで浮いてんだ！？」  
てかここどこだ！？　なんで俺はこんな所にいるんだあ！！  
？？」

よ、よろし落ち着け、俺！　まずは状況確認だ！

意識　　く　はつきりしてる

体調　　く　特に問題なし、はつきり言って好調

俺の身体　く　丸い球体、ついでに光ってる

？「よろし、問題なし…じゃねえ！？　なんで俺の身体が球体なんだ！？」

あ！「　　いったいなにがどうな「それは私が説明します！」っておわ

な、なんと目の前に美人『ココ重要』なお姉さんが！！

？？「えくと、あなたが藤堂鏡夜さんとうどうきやですよね？」

？改め　鏡夜「え？ああ、そうですね？」

？？「よかった、やっと会えた…では」

鏡夜「で、では？」

何をする気だこの人は！？

？？「すみませんでしたああああ！！！！」　　めちやくちゃき

れいな土下座

あ、なんかいやな予感・・・



鏡夜「はあ…というわけで

プロローグはもうそろそろ終わる、というか終わらせるから  
みんなのしみにまっけてくれよー！じゃあなー！！」

感想待ってます！！

### その3 (前書き)

プロローグはこれで最後です！

個人的に納得いかなかったんで、少し修正しました

### その3

前回のあらすじ!!

俺、しろい空間にいた!

俺の身体が丸くなった!?

目の前で美人が土下座!!

~~~~~

お話中　しばらくお待ち下さい

鏡夜

「…つまり今の話をまとめると、

あなたは女神で昼寝

している間に俺を間違えて殺してしまった、と」

女神? 「は、はい…その通りです」

まだよくわからんが、とりあえず俺がやるべき事は決まった

というわけで、携帯電話を取り出して…

鏡夜「1、1、きゅ「な、なにしてるんですか!」「ん?なにっ
て、

頭がお花畑の人がいるから救急車を呼ぼうかと

…」

女神?「やめてください! 私は正常ですよ!?!」

鏡夜「嘘だ!?!?!」

思わず某鈍女の台詞を言う

女神?「本当ですよ!

じゃあ、あなたのその身体はどうやって説明するんです
か!?!」

げ、痛いところついてきやがった…

鏡夜「はあ…わかったよ、じゃあ仮にあんたが神だとして

なんで俺はこんな身体なんだ?」

女神「はい、それは死んだ人の魂がそんな形になるからです。

普通は光りませんが、間違っで死んでしまった魂は全て光
ります」

なるほど、確かに話の内容があっている

てことは、やっぱりこの人って女神??

鏡夜「(しょうがない、信じるしかないか)

で、

俺はこれからどうなるんだ？

天国に行くのか？ まさか地

獄か！？」

女神「いえ！そんなことはありません。あなたはどちらにも行きませんよ？

そもそもちゃんとした死でない限り天国にも地獄にも行きませんし。」

鏡夜「は??？」

え、じゃあ俺はどうなるんだ？ あ、まさか・・・

女神「あなたには別の世界に転生してもらいます!!！」

…うん!!！」

鏡夜「テンプレですね」

女神「…はい、

わたしたち神が人を間違えて殺してしまった場合それしかできませんから」

…妙な裏事情を知ってしまった

鏡夜「で、俺はどこに行くんだ？ そしてチート能力は付けてくれるのか？」

女神「はい、あなたが行く世界はあなたが決めて下さい。
そして能力ですが、1つだけならかなえれますよ?」

まじで!?!…もしかして

鏡夜「なのはの世界にも行けるのか?」

女神「はい、アニメや漫画の世界だろうと行けます!」

きた————!!!

鏡夜「じゃあ行く世界はもちろんなのはの世界で!

んで、能力はフェ「ちよつと待って下さい!」……な
んだよ?」

女神「能力に関するのですが、少し注意事項があります

f a t e やネギま!の能力は禁止

アニメやゲームの世界の全ての能力を使用可能 も禁止
の2つです。」

鏡夜「なにい!?! 嘘だろ…(泣)」

せつかくチート考えてたのに…orz

女神「えと、その前に殺してしまったお詫びとしてあなたに能力
をひとつあげます!」

鏡夜「まじで!?!何か得した気分だな!で、何の能力なんだ?

まさかフェ「いいえ、違います」…じゃあなに?」

女神「あなたが学生の頃考えていた能力を差し上げます！」

え、それって…もしかして…

鏡夜「それってさ、もしかして…」

女神「ええと、初期化リセットでしたっけ？」

鏡夜「うがああああ…!!」

それって、俺が厨二病全開だったとき考えた能力じゃねえか!!

鏡夜「けどそれって、一応過負荷だろ？俺はどうなるんだ？」

女神「大丈夫です！一種のレアスキルとして渡しますから」

鏡夜「ならいいけど…はあ」

女神「どうしたんですか？」

鏡夜「いやまさか、あのころ考えていた能力を使うことになるのは…」

思い出せば思い出すほど、俺って厨二病だったんだな

女神「あはは…」「苦笑」で、あと1つはどうするんですか？」

鏡夜「それじゃあ、身体能力をかなり高めにして俺にリンカーコアをつけてくれ！」

正直言つと初期化リセットあるだけでだいぶチートだしな

女神「わかりました！では、おりゃー！……はい、終わりましたよ！」

鏡夜「はやすぎないか!？」

いや、神様だとしてもはやすぎるだろ!!

女神「細かいことは気にしないで下さい!

ええと、身体能力は大人100人くらいで、
リンカーコアの魔力はSSSにしましたよ。」

まさかのチートボディきたー!!!!

鏡夜「ありがとうございます!」

女神「いえいえ、元はといえば私が間違つて殺してしまったので……」

鏡夜「女神さん……」

この人めちやくちやいい人じゃねえか!

さっきまでの俺を殴りたい!!

女神「では、いつてらっしゃい!!」

女神さんがそう言った瞬間、軽い浮遊感……

……ん？ 浮遊感？

鏡夜「やっぱりかああああああああ！……！」

そして俺は落ちていった

頭上で女神がこんなことを言っているとは知らずに……

女神「……あ、間違えちゃった、テヘッ」

その3(後書き)

zeilga「はい!というわけでプロローグその3でした!」

鏡夜「ブツブツ…」

zeilga「…おい鏡夜、いい加減戻ってこいよ。」

鏡夜「痛い…痛すぎる…」

zeilga「そんなにイヤだったのか?あの能力。」

鏡夜「当たり前だろ!?冗談で作った能力だったんだ!

それが…それが…!」

zeilga「自分が使うことになった、と…(・・)(ニヤニヤ」

鏡夜「ちくしょおおおおお!!」ガチャツ「部屋から出て行く

音」

zeilga「あゝあ、いつちゃったよ…

てな訳で、次回からは本編にはいるから待っていてくれよ!

それじゃあ、また会いましょう!! さよなら!」

感想待ってます!!

プロローグ くやっと転生、でもいきなり問題発生！?? (前書き)

ちよつとここら辺でふきだしのこゝについて変更があります
この無印編からはこんな感じに変わっていきます

【】 〓 鏡夜の会話

「」 〓 鏡夜以外の会話

《》 〓 鏡夜の念話

（） 〓 鏡夜以外の念話

とまあ、こんな感じです！

では、無印編？プロローグをどうぞ！！

プロローグ くやっと転生、でもいきなり問題発生！??

前回のあらすじ!!

俺、間違っつて殺されてた!

厨二病全開の能力をもらった!

なのはの世界へ転送! …あと、女神さんがなにかを間違えた

~~~~~

【……ん?、どうやら転生できたみたいだな】

そう言っつて俺は身体を起こした

どうやらここは森の中らしい、周りの暗さからして今は夜か?

【よつと…ん?、何か身体の感じが変だな?】

転生したてだからか?とりあえず状況確認だ! えつと…

意識 く まだ少しぼやけているが、

転生してあまり時間がたつてないからだろう



体調　↳　女神さんのおかげか、とても好調。ただし違和感？

身体　↳　だいたい9か10歳くらいの身体で、髪は金髪

【よし、特に問題な…？】

突現近くのしげみがゆれた

なんだ？犬か？猫か？まさかフェレットか？

そう考えていた俺の前に出てきたのは…

触覚が二本あり、黒くて丸くてでかいナニカだった！

【……は？】

キョウヤ　ハ　クロクテマルイナニカ　ト　デアッタ！

キョウヤ　ハ　ドウスル？

1、戦う

2、道具

3、いれかえる

4、逃げる

【て、これポ モンじゃねえか！？ しかも入れ替えるって誰と  
！？？】

と、とりあえず相手を観察しておこう！

見た目　　く　黒くて、丸くて、でかい

特徴　　く　長い二本の触覚と、赤く光る目

補足　　く　形がぼやけてるような・・・？

なぐんか、どこかで見たような気がするな…？

そう思っていたら、そのナニカが俺をにらんできている

どう考えても、おれ狙われてるよな・・・

【考えるのはあとだな、今は戦るしかねえ！】

こじつなったらとことんやっつてやらあー！！

そんなわけで、俺は転生してから1分で戦うことになった

このとき、はやく気づくべきだったんだ

自分が戦っているナニカの正体と身体の違いの原因に・・・

プロローグ くやっと転生、でもいきなり問題発生!?? (後書き)

zeilga「てなわけで無印編?プロローグでした!」

鏡夜「まさかいきなり戦うことになるとは思わなかったな。」

zeilga「敵の正体は察しがいい人ならわかるかな?」

鏡夜「ていうか、ほとんどのやつならわかるだろうが!」

zeilga「なん...だと...!?)(;・・・)」

鏡夜「おい、まさか隠しきったつもりだったのか?」

zeilga「...はい、では皆さん次回を楽しみにしてくれよな!」

鏡夜「おいコラ!、俺の質問に答える!」

zeilga「)。。(アアアなにもきこえない」

鏡夜「(ブチッ)そうか、よっぽど死にたいらしいな... (#^

^)」

zeilga「きよ、鏡夜くん?この場所はお話をするところだよ?」

鏡夜「わかってるって、OHANAASHIをするところだろ?」

じゃあサツソクしようか?」

zeilga「文字が違うよ!?、ってぎゃあああああああ!」

!..!」

鏡夜「散れやぼけえええええ!!!」

.....感想待ってます!

プロローグ その2 くいきなり戦闘、そして予想外の事態！?? (前書き)

連続投稿だ!!

今回は、結構長めです!

プロローグ その2 ～いきなり戦闘、そして予想外の事態！？～

前回のあらすじ！

森の中に俺、参上！

黒いナニカが現れた！

サツソク戦いだと！？

~~~~~

【こっち来るなああああ！！】

はいどうも、鏡夜です！

…え、いまなにしてるかって？

答えは簡単！！

絶賛、逃走中です

…すまん、何か無駄にテンションあがっていた

だが、逃げているのは本当だ

イヤだつてさ、さっきまで戦っていたんだけど

どれだけ殴ったり蹴ったりしても元の状態に再生してしまうんだよ!!

【それなら、初期化リセットを使っしかねえ!】

そう思い初期化リセットを使おうとしたけど…

【…どうやって使うんだ?】

そう!使用方法を聞くのを忘れていたんだ!! てな訳で…

【ちくしょおおおおおおお!!】

あの黒お化け(勝手に命名)から逃げているんだよ!

【つたく、再生能力とかふざけんじゃねえぞ!

こんな化け物じみた能力なんてあいつはどこぞの暴走体か!?!】

…ん、ちよつと待てよ?

黒くて、丸くて、目が赤く光っていて、再生能力を持っていて

……

…っつて、まさか!?!

ひとつの可能性が出てきて、俺はある映像を思い浮かべる

それはなのはの第一話

そこに出てきた暴走体と俺を追いかけてきている黒お化けを重ねてみた…

・・・うん！ 全く一緒だ！！

【つてことはあいつ、ジュエルシードの暴走体じゃねえか！！】

あれはなのはとユーノが封印したはずだろ！？

つまり…今は原作開始前つて事か

ということは、近くにはユーノがいるはず！

【あの淫獣だけが頼りかよ！くそつ、どこにいる！？】

さて、ここで疑問が出てくる

なぜ、淫獣^{ユーノ}だけが頼りなのか？それはな…

俺は封印術が使えないからだ！！

かといって、たとえ封印術が使えたとしてもあいつを見つけない

ければならない

なんでかって？それはね…

俺はデバイスを持っていなかったんだ！！

あの女神さんからもらった能力は

初期化^{リセット}

SSSランクのリンカーコアと大人100人ぶんの身体能力
の2つ

つまり…デバイスを持っていなかったら俺は魔法が使えない！

そして初期化^{リセット}は使用方法が不明で身体能力は今回は意味がない

つまりは俺一人だったらもうすでに詰んでいた。あぶないあぶない…

【どうやってたら…あ、念話があるじゃねえか！】

やり方は詳しくはわからんが今はこれにかけるしかねえ！！

《おい、誰か聞こえるか！聞こえたなら返事をしてくれ！！》

「……?side」

「……ん?」

「ここはどこだろう?」

そう思い目を開けるとボクは走っていた

……あれ?

なんで身体が勝手に動いてるんだ!?

こっと思っている今も身体は勝手に動いている

すごい勢いで走っている、どこに行くのだろうか?

……で、そんなことじゃない!

ボクはたしかこのあたりに落ちたジュエルシードを探しに来て

……

そっだ!索敵魔法に反応があった瞬間意識を失ったんだっけ……

ということは、ボクは誰かに操られているのか?

そんな魔法聞いたことがないよ!?

そう考えていたら

《おい、誰か聞こえるか!聞こえたなら返事をしてくれ!》

突然念話が聞こえてきた

ということは、このあたりに魔導士がいる

…もしかして、時空管理局の人かも!

《誰かいないのか!?》

もしかしたら、助けてもらえるかもしれない…

そう思い、僕は助けを求めるために念話を使った

(こちらの声が聞こえますか!?)

side end

(こちらの声が聞こえますか!?)

【うわ、なんだ!?!】

繰り返し念話をしていたら、突然頭の中に声が響いてきた
どうやら念話はうまくいっていたみたいだな…

もしかしてアタリか!?

《ああ、聞こえているぞ!》

(ああ、よかった!)

《で、おまえは誰だ?》

(はい、ぼくはユーノ・スクライアといいます)

おっしゃアタリだ!!

《そうか、ユーノだな。おまえは今どこにいる!?!》

(はい、それが誰かに身体を操られているみたいで…)

《なに!?!》

そんなの聞いたことねえぞ!まさかイレギュラーか!?

《わかった!とりあえずおまえの!?!》

いきなり黒お化けが飛びかかってきた！

《くそっ、少し待ってろ！》

そう言いつつ俺は黒お化けから隠れるために木の上へ跳ぶ

そして色々な木に飛び回り適当なところの木の葉の中に隠れて、
様子をうかがう

・・・よし、あいつは俺を見失ったようだな

これで念話に集中できる

(どうしたんですか!?)

《ああ、今ちよっと追われていてな…》

と、そんなこと話している場合じゃない！

《で、おまえの身体は今どこにいる!?!》

さっさとイレギュラーを排除しねえとおr・ユーノの命が危
ない!!

(えっ!とですね、先ほどまで走っていたんですけどいきなり木の
上に跳んで

木と木をすごい早さで飛び回って今は木の中に隠れているよう
です)

・・・・・・・・え？

《すまん、もう一回言ってくれないか？》

（あ、はい。先ほどまで走っていたんですけどいきなり木の上に
跳んで

木と木をすごい早さで飛び回って今は木の中に隠れているよう
です）

《・・・・・・・・》

（どうしたんですか？）

おいおい、どういう事だよ・・・？

さっきのユーノの身体がした行動と俺がさっきやった行動が全
く一緒になっている

もしかして・・・

その瞬間、木がいきなり折れた

【っ、もうばれたか！！】

そう思い、すぐに地面に降りて走り出す

こんだけ動いているのに疲れないなんて、さすがチートボディ

！！

そう考えていたらユーノから念話が入ってきた

(あ、今動き出しました、またどこかに走っています！)

・・・やっぱりか

まさかとは思ったが、どうやら正解だったようだ

俺はそれを伝えるためにユーノに念話をとばす

《おい、ユーノ聞こえるか？》

(はい、聞こえます。)

《おまえの身体を見つけたぞ》

(本当ですか！？…けれど、どうやってこの魔法を解除するんですか？)

《その心配はない》

(解除の方法を知ってるんですか！？)

《そもそも解除の必要はない、なぜなら・・・》

《俺がおまえの身体を使っているからだ》

プロローグ その2 ～いきなり戦闘、そして予想外の事態！？～（後書き）

zeilga「てなわけで、無印編？プロローグその2でした！！」

鏡夜「おいこら作者^{アホ}！これはどういうことだ！？」

zeilga「どういうことって？てかさらつとアホ呼ばわりしないでよ」

鏡夜「なんでこんなよくわからん状態に俺はなってるんだ！？」

zeilga「なんでって、それは俺がそうしたかったからだ！！」

鏡夜「……」

zeilga「??」

鏡夜「…なあ、作者^{アホ}？」

zeilga「…ナンデコブシヲコチラニムケテルノデスカ？（；。）」

鏡夜「最後に言いたいことはあるか？」

zeilga「ねえ無視？無視なの！？」

鏡夜「くたば」待て、言いたいことならあるから！」「…なんだよ？」

zeilga「反省はしよう！、だが後悔はしん」くたばれやああああ！！」

つてぎゃああああ！！！ ガクッ」

鏡夜「つたく、いい加減にして欲しいな

つと、これを見てくれてるみなさん

次回も楽しみにしててくれよな？じゃあな！！」

感想待ってます！！

プロローグ その3 く改めて、戦闘開始！ーく（前書き）

先に言っておきます・・・

すみませんでしたあああああああー！ー！

プロローグ その3 ～改めて、戦闘開始！～

前回のあらすじ！！

俺の力が通用しないぜ！！

ユーノ（淫獣）との念話に成功！

俺、ユーノの身体に憑依！？

~~~~~

（それってどういふことですか！？）

あゝ、やっぱりそう言うよな…

《落ち着け、俺だってなんでこうなってるかわからねんだ！》

（わからないって、あなたがやったんじゃ・・・）

ああゝ、もうまどろっこしい！！

《おいコラユーノ！！！》

（え？あ、はい！）

《このことについての話はあとだ！とりあえず今は目の前のことに集中したい！》

こいつ言い合っている間にもあの黒お化けはこっちに来てるからな  
いくらチートボディとはいえ、

このままずっと走っていたらどうなるかわかったもんじゃないねえ！

(わ、わかりませ《あ、あとユーノ！》は、はい！)

《敬語はなれてねえからやめてくれ！ 俺は目上の人間じゃねえ  
からな・・・》

敬語だったのも俺を管理局の人間と間違えていたからだろうし・

(え、でも《いいから！》・・・うん、わかったよ。え〜と・・・

ん？

《どうかしたか？》

(…君の名前ってなんだっけ？)

……………あ、言うの忘れてたorz

《わりイ、言ってなかったな…藤堂鏡夜だ。鏡夜と呼んでくれ》

(うん、わかったよ。ところで、目の前の事って？)

そっだ、忘れてたー！

《あぁ、ところでユーノ、おまえ俺の後ろから来てる奴が見えるか？》

(うっん、見えないよ。今見えてるのは多分前の光景じゃないかな？)

・・・どうやら見ているものは一緒らしいな、なら…

《これならどうだ？》

そっ言っつて、俺は後ろを向きながら走る

…なんか

【こうしてみると黒お化けって、もの け姫のタタ ガミみたいだな(汗)】

てそんなこと言ってる場合じゃねえ！

《で、見えるか！？》

(うん、見えるよ…って、この反応はジュエルシードじゃないか！？)

《そっか、こいつはジェルシードというのか？》

念のため原作知識は出さないようにしないと…ばねるとめんどいし

(いや、ジュエルシールドは本来宝石みたいな形をしている…)

多分これはジュエ

ルシールドが何らかの形で暴走しているみたいだ)

《そっか、ならどうすりゃいい？倒せばいいのか？》

(多分普通の攻撃じゃ意味がないと思うよ)

ですよね、さっき散々試したからな…

《じゃあどうすりゃいいんだよ…！？て、しまった！》

突然道が開けて広場みたいな所に出てきてしまった

そして黒お化け登場！！

・・・これじゃ逃げねえよ

(おちついて！、あれがジュエルシールドなら封印をすればいいから！)

《まず俺はその封印の仕方を知らねえんだよ！！》

(大丈夫、君が今使っているのはボクの身体だ。

だからデバイスがあれば出来るはずだ！)

《じゃあそのデバイスはどこにあるんだよ！》

こっぴ言い合ってる間にも黒お化けは突進をしてくて、俺はそれ

をひたすらよけている

少しからだが重い、疲れてきたのか？…それならもっとやばいじゃん！！

(鏡夜！腰のポーチから赤い宝石を出して！！)

《赤い宝石？これか！？》

そう言っただけで俺が取り出したのは丸くて赤いきれいな宝石

…これレイジングハートじゃね？

(そうそれ、それを使ってあいつを封印するんだ！)

《封印って言ったって、呪文は！？》

呪文なんか知らねえぞ、俺は！？

(それはこの宝石が教えてくれる！…はず)

疑問形！？

《あゝもう、こつなったらやるしかねえ！！》

そうして俺は宝石を黒お化けレイジングハートに向かってつきだした

その瞬間宝石が光り出し、

複雑な魔法陣が出現するとともに俺の中に言葉が浮かび上がった

てくる

【こいつを言えばいいのか!?!】

上手くいつてくれよ!

【我が光よ、闇を打ち砕け】

(できるかわからないけど、ボクも手伝っよ!)

【許されざる者を封印の輪に】

《ああ、頼む!》

【(ジュエルシード、封印!!)】

その瞬間、光(魔法陣)と闇(黒お化け)が衝突した



プロローグ その3 〱改めて、戦闘開始！〱〱（後書き）

zeilga「はい、というわけで無印編？プロローグその3でした  
！」

鏡夜「ちよつと待て作者！

このまま行ったら俺とんでもない原作ブレイクしそうなん  
ですけど！？」

zeilga「大丈夫！そこら辺は考えてあるからな」

鏡夜「頼むぞ！？下手すりゃ題名から変えなきゃならないことにな  
る！」

zeilga「魔法少年リリカルきょうや…ていうことになるのか」

鏡夜「そつだ、それだけは絶対避けなければいけない…」

zeilga「ああ、わかっているさ、俺もそれを考えたら…（；

）ゴクリ…やばいな」

鏡夜「だが元はといえばおまえが原因だよな」

zeilga「（、――（；ドキッ！…というわけで今日  
はここら辺で！

次回もお楽しみに〜じゃっ！」 〱（、（ノ

鏡夜「おい待て、逃がすかよおおお！…！！！！！！」 〱（〱（ノ  
。。（ノ

感想待ってます！

ブローグ その4 〱突然終了、そして事情聴取！〱（前書き）

もう一回投稿！！

ブログ その4 ～突然終了、そして事情聴取！～

前回のあらすじ！！

ユーノとの話し合い完了！

倒す方法発見！

封印してやらあ！

~~~~~

～ユーノside～

(よし、このままならいけるよ！)

《わかってる、このまま封印するぞ！》

そう言って鏡夜は強くデバイスを握りしめている

それにしても、たった一回でちゃんと発動させるなんて…

彼は一体何者なんだ？

封印し終わったら聞いてみようかな？

そんなことを考えていたら、突然

【はあ、なんだよいきなり!?】

彼がいきなりそう叫んだ

え、ボクなにも言っていないよ？

そう言おうとしたが

【ちよい待て、人の話を・・・!】

そう言った瞬間封印の魔法陣が消えた

(え!?)

まずい!、今やめたら・・・

そう思ったが遅かった

あの暴走体の突進をうけてしまい

ボクの身体は空高く舞い上がった、その瞬間

(いたっ!)

ボクに痛みが走った、それと同時に身体感覚が戻ってくる

だがボクの身体は地に倒れ、暴走体はどこかへ行ってしまった

(いたた・・・、鏡夜?)

呼びかけてみたが彼からの反応はない

「鏡夜？、どうしたの鏡夜？…って、あ！」

普通にしゃべれるようになってる・・・

けれど身体が先ほどの攻撃のせいか動かない

まずい！あれがもしも都市のほうにいったら・・・

…本当はこんなことしたくはないけど

そしてボクは残る力を振り絞って念話を使った

（誰か、この声が聞こえる誰か、お願い、力を貸して・・・）

～ユーノside end～

・・・たくっ、なんでこんなことになったんだ？

あ、どうも鏡夜です

おまえなにしてるんだよだって？

なにしてるって言うと・・・

「ホントにすみませんでしたああ!!!!」

あのときと同じ女神の土下座を見てあきれてるどころだ

そもそもなんで俺がまたここにいるのかというと・・・

～回想スタート～

（よし、このままならいけるよ！）

《わかってる、このまま封印するぞ！》

よし、このままならいける！

そう思っていたら

（鏡夜さん！聞こえますか!?!）

え、なんで女神さんの声が？

（聞こえていたら聞いてください！今からあなたをこちらへ呼び

戻します!!)

【はあ、なんだよいきなり!?】

いきなりなに言っただこのひと (??) は!?

(大丈夫です、今回は意識だけです!ではいきます!!)

【ちよい待て、人の話を・・・!】

そして、俺の意識はとぎれた

【・・・いてて】

そう言っただ俺が目を開けると

いつぞやの白い空間に俺はいた

【たく、いったい何のよ!」どうやら来たみたいですね!では...」
...なに?】

何かやな予感が・・・

「ホントにすいませんでしたああ!!」

〜回想 終了〜

よし、状況はわかったな？ということだ…

【なんで俺をまた呼び出したんだ？】

「えつとですね、あなたを送る際に色々ミスをしてしまったその内容を説明に…」

やっぱりなんか間違っついていやがったか…

【で、なにを間違えたんだ？】

俺がユーノの身体に憑依してしまったことか？

「いえ、それだけじゃなくてですねその他にも…」

そう言って女神さんが説明してくれた内容をまとめると…

手違いで、俺はユーノの身体に憑依（？）した

手違いだったため、ユーノの魂は消えなかった

さらにユーノの身体のため、身体能力を高めすぎると身体が持たない

の3つだった

とりあえず言おう・・・

【ドンだけミスってたんだよ!？】

「すみません！お詫びに願いをなんでも叶えますから！」

そう言って謝ってくる女神さん、そこまで謝られるとなんか罪悪感が…

【えっと、じゃあ身体能力を制限できるようリミッターをかけてくれ】

「・・・え？」

ん？何か変なこと言ったか？

「いえ、もっとチートな能力を頼んでくるのかと・・・」

【いやいや、初期化^{リセット}あるだけでだいぶチートだよ】

あれひとつでとんでもないからな…

「はあ、そうですね…では、えいっ!・・・はい、もう終わりましたよ!」

いつ見てもはやいよな…ほぼ一瞬じゃん

【で、どんなかんじに感じたんだ？】

「はい、とりあえず10段階に分けてかけておきました。

1つ解放することに大人10人分能力が上がりま
す」

【おお、けっこうわかりやすいな。ありがとな】

「いえ、けれど本当によかったのですか？」

【ん、なにが？】

「願いですよ、まだかなえることは出来るんですよ！もう無いんですか!？」

【うん、別にいららないかな】

特に必要なこともないしな・・・

「いえ、それじゃ私の気が収まりません!ということ、えいっ
!..!」

【うわっ、なにをしたんだ!？】

「能力をひとつ追加させてもらいました!」

【え、なんで？別によかったのに...!】

「それじゃあ私の気が収まりませんから・・・」

なんか健気というか、真面目というか...

【はあ、んじゃありがたくもらっておくよ、ところでなんの能力

？】

…まさか、フェーはい、今回渡したのは幻想殺し（イマジンプレイカー）です！」

…やっぱちがうよな…

「では、その扉をくぐればなのはの世界へまた行きますが
ナニカ聞いておきたいことはないですか？」

【あ、じゃあ初期化の使い方を教えてくれ】

これ知らなくて、えらいめにあつたからな…

「はい、基本の使い方はあなたが考えたときと同じですが
“零”を使う場合はあなたが一回それを経験しないといけません」

ん？

【つまりどついついこと？】

「え〜とですね、つまり相手の魔法に“零”を使いたいなら
相手の魔法を一回受けなければなりません」

結構使い道が限られるな…まあいつか！

【なるほど、ありがとな女神さ「アテナです」ってえ？】

「いつまでも女神さんじゃよそよそしいですので、アテナと呼んでください」

ええええええ!!???

アテナって、たしか戦いの女神じゃなかったっけ!?

そんな偉い人に俺はため口だったのか!?

【あ、はいわかりまし」口調も前ので良いですよ「∴ああ、わかった】

・・・何か普通にいい人だな

【じゃあ、そろそろ行くわ。能力くれてありがとうな、アテナ】

「はい、では行ってらっしゃい!」

アテナの声を背に俺はなのはの世界へ戻っていった

あれ?そういや・・・

【封印の途中で消えたけど大丈夫だったのか?】

プロローグ その4 突然終了、そして事情聴取！〜（後書き）

zeilga「てなわけでプロローグその4でした!!」

鏡夜「なんつーか、強引だな・・・（；；、）トホホ…」

zeilga「しょうがねえだろ！俺だつて一生懸命したんだ！」

鏡夜「けどこれで何とかなったんだよな？」

zeilga「ああ、なんとかなったよ・・・多分」

鏡夜「なんか激しく不安なんだけど!？」

zeilga「そこら辺は鏡夜が頑張ってくれ！（ー）（bグツ!」

鏡夜「いや、おまえがガンバレよ!？」

zeilga「俺は…もう…限界なんだ…（、、、）グツタリ」

鏡夜「おい作者!?!だいじょうぶか!おおいいいいい!!!!」

感想待ってます!!

「こころ」でキャラ紹介（前書き）

色々修正しました

ここら辺でキャラ紹介

「はい、みなさんおはようございます！又はこんにちは！、又は
こんばんわ！

作者のゼルガです！！」

【この作品の主人子の鏡夜です！！】

「というわけですね、今回は題名のとおり鏡夜の紹介をしたい
と思います！」

【なあ、なんでいきなりやろうと思ったんだ？】

「ああ、それはね、…鏡夜の設定がわかりづらいし、
何よりも能力の確認をしておこうかなと思ったからだよ！」

【どうせ俺はわかりづらいよ……）　、　（＝3　ハアーツ】

「まあまあ……（汗）じゃあまずは転生前の紹介から行かせ！」

名前：藤堂鏡夜　（とつとつ　きょつち）

容姿：めっちゃ普通、もしも適当に人を100人集めて

らい普通

イケメンランキングを作ったらジャスト50位になるく

年齢：享年19歳

性格：お人好し、困っている人を見かけたら放っておけない

好きな作品：なのは、ガンダム、めだかボックス、Fate、
ete...

学校は中学を出たあと高専に行つて、機械科の大学にいた
なのは友達に勧められて漫画を見てハマツた
DVDも見たいと思ひ1週間かけてようやく借りれたところを
アテナにより手違いで殺された

「…とまあ、こんな感じだな」

【あんときはほんとうにショックだったな…】

「やっと借りれた瞬間に殺されたモンね・・・」
「プッ」

【よし、まずおまえの身体から刻んでやるよ（＃・（・）】

「やべっ、という訳で次は転生後の紹介に行くぞ！」

【チッ・・・】

名前：藤堂鏡夜（とうどう きょうや）

容姿：ユーノそっくり…というかユーノの身体
自分がでているときは目が赤くなり、
何故か髪がツンツンになる

性格：転生前に加えてポケ&つっこみスキルが出てきた
年齢：なのは達と同じ年（身体年齢が）

能力

リンカーコア SSSランク

：ただし憑依もどきのため、この魔力が使えるかは今のところ不明

身体能力 大人100人分

：ただしリミッターを付けており、今は2段階目までしか解放できない

リセット
初期化

：アテナからもらった厨二病全開の時に鏡夜が考えた能力
元はめだかボックスの マイナス過負荷だったが
アテナのおかげでレアスキル扱い
能力は“壱”と“零”の2種類を使い分ける

吉：あらゆるものを初期化（元の状態に）する

零：あらゆるものを初期化（なかったことに）する

違いがわかりづらいが

例えばある人に無意識で“吉”を使ったらその人を赤ちゃんの状態まで戻し

“零”を使ったらその人の存在そのものが消える

球磨川の大嘘憑きを二つにわけたようなものだが

この能力は調節することが出来るうえに過負荷だろうと世界だろうと使用することが出来る

「……………」

【……………やっぱりチートだなあ】

「けれど、初期化以外は何か平凡じゃね？」

【それを言うんじゃない！…それにこれだと向かうところ敵なしじゃないか？】

「大丈夫、そこら辺は考えてあるから、フッフッフッフ…」（黒笑）」

【…(汗)ま、まあとりあえず、俺の説明はこんなモンだな】

「そだなーそれじゃ、今日はここら辺でー!」

【これからもこの作品をよろしく頼むぜー!】

「こら辺でキャラ紹介（後書き）」

おまけ

【もしかしてこれをしたのって、ネタが思いつかなかったからじゃねえか？】

「（、——；）ドキッ！！　そ、そんなわけないじゃないか」

【・・・（何か怪しいな）おいコラ作者】

「な、なんだよ」

【なんで今回は少し更新が遅かったんだ？】

「なんでって、最近の生活が忙しかったからだ！」

【そうか…苦勞したんだな】

「そっだ！山のように課題出されて、この小説だってネタを考えて思いつかないから今回はこれで場をつなごうと・・・あ（。）」

【・・・ちょっと後でOHANA SHIしようか？】

「しまったあああああああ！……！」

感想・質問があったら待ってます!!

第一話 〽戻っていきなり戦闘だと!?!?〽 (前書き)

ためておいた原稿を間違っで削除してしまった・・・orz

そのため、おかしくなってるかもしれません!!

第一話　く戻っていきなり戦闘だと！？く

前回のあらすじ！！

強制的に連れ戻された！！

新たな能力を手に入れた

オレ、戦いの女神にため口だった！？

~~~~~

……ん？

どうやら着いたようだな？

つて、ありゃ？

身体が動かない……

それに目もあかない…あけられないの方が正しいか

とりあえず、念話を使う

《おい、ユーノ聞こえるか？》

………反応無し



もしかして、寝てるのか？

ならばー！

《さつさと起きねえか、ユーノ（淫獣）！！》

これなら起きるはず！

「うわ、なんだ！？」

ほらな？

《やっと起きたか？》

（その声は鏡夜！？今どこにいるの？）

そう言った瞬間からだがり周りを何度も見ている

《落ち着け、前にも言ったがオレはおまえの身体の中にいるから》

（そうか、そういえばそうだったね・・・ねえ鏡夜）

《ん、なんだ？》

（さっきユーノって呼んだよね？ナニカ違う風に呼ばれたような・・・？）

《キノセイキノセイ》

(なんでカタコト!?)

《それはさておき》

(さておかれた!?)

《ここはどこなんだ、あの森じゃないようだが?》

見た感じどこかの病院か?

(うん、あのあと色々あってここに連れてきてもらったんだ…と  
ころで鏡夜)

《うん?》

(どうしてあのとき急に封印をやめたの?)

あの調子なら封印できたのに…)

ああ、それが…

女神アテナに連れて行かれた!! っっていつでも信じるわけねえしな…

《ああ、それはおれにもよくわからねえ

あのとき突然目の前が真っ暗になったんだ》

はいそこ、ポ モンとか言わない!

(そうだったのか…)

と、そういえば忘れてた！

《ユーノ、おまえ今身体動かせるか？》

(え？うん、普通に動かせるよ)

そう言っつてユーノは手を握ったり開いたりした

ん？もしかしていまならできるんじゃない？

そう思い、手を思いつき振り回した

が、手は動かない

・・・やっぱだめか

《どうやら今はユーノが身体を動かせるようだな》

(鏡夜は動かせないの？)

《まあな、さっきから動かそうと思ってるけど全く反応がねえ》

(鏡夜が意識を失ったからかな？)

《まあそこら辺はのんびり考えよう・・・ところでユーノ》

(なに？)

《なんで俺らの身体がフェレットになってんだ！？》

そう、先ほどユーノが手を動かしたときに目に入ってきたんだが

どう考えても人間の手とは思えない程ちっちゃかったんだ!!

それに、たしかフェレットモードは傷をいやすためになるはず…

アテナに連れ戻される前までは無傷だったよな？

じゃあフェレットになる必要は…

(あ、それは鏡夜が意識を失った瞬間に暴走体の攻撃を受けてしまってたね…

その傷をいやすために今はこの身体になってるんだ)

…あつたようですね、はい

《そうか、だから俺らはケージに入れられてるんだな》

最初は檻に入れられてるのかと思っただぜ…

(ははは…(苦笑))

《つまりここは、動物病院なのか…って、あ!》

そう言ってオレは周りを見た

時間帯 〳 夜

場所 〳 動物病院

俺らの身体　く　フェレット

俺らがいる場所　く　ケージの中

ここまで言えばもうわかるよな？

どうかんがえてもあのシーンですね（汗）

やばい、これは早急に教えなければ！！

《なあユーノ、実は「ガサッ」ん、なんだ？》

（猫かナニカじゃないの？）

ガサガサ・・・

《猫か、迷い込んだのか？》

ゴソゴソ・・・

（多分ね。それよりもさっき言おうとした事ってなに？）

ガサゴソ・・・

《ああ、それは・・・》

ドゴーン！！

《(ドゴン!?)》

ヒタヒタ・・・

(ナニカこっちに来てるね・・・)

《なあユーノ、俺めちやくちやいやな予感がするんだが…》

(奇遇だね、ぼくもだよ…)

そして、それは目の前にやってきた

そう、みんなも知ってるあのキャラクター・・・

黒お化け(暴走体)、登場!!

ユ・ノ side

(く、なんでこんなとき!?)

まだ傷が治りきってないこの身体じゃ封印が出来ない!

《そんなことより今は逃げるぞ!!--》

(うん、わかった!!……つて、ええ!?)

《どうした!?》

(ケージに鍵がかかっている……)

《嘘だろおおおお!!??》

ど、どろじょう!?

この手じゃ鍵なんて開けられないよ!

だけど暴走体はそんなことお構いなしに、突進してきた

《ちっ、ユーノ!防御だ!!》

そう言われ、ボクは反射的に身体を丸くした

その瞬間、ケージに衝撃が走った

《「わああああ!!」》

いてて…外まで吹き飛ばされたみたいだ

《おい、大丈夫か!?》

(うん、なんとか……つて、あ!!)

今のでケージの鍵が壊れてる……

これなら出られるかも!!

「えいつ!!」

よし!なんとか出れた!!

それと同時に、暴走体もこちらに追いついた

そしてボクに攻撃(突進)を始めた

《おいおい…このままじゃまずいぞ!?!》

(わかってるよ!けれど今の身体じゃボクは封印が出来ない。

鏡夜、何とかして出てこれない?)

《わかった!やってみるからしばらくよくよけてろ!!》

(うん!つてイタツ!!)

く、少しあたってしまった…

もしこれで鏡夜がダメならどうすることも出来ない

《クソ、やっぱりダメだ!なんの反応もねえ!!》

やっぱりダメか…

…くそ!これしかないのか!!



ユートサイド end

《クソ、やっぱりダメだ！なんの反応もねえ！！》

どうすればいい、どうやったら勝てる！？

俺は頭はフル回転させて考えていた

(…鏡夜、ボクにひとつ案がある)

《何かあるのか！？》

(この世界の魔法の才能がある人に助けを求める)

・・・それがあつたな

(念話に気づいて助けに来てくれるかも・・・)

《ああ、だがそれでいいのか？》

実を言うとこれは俺が原作を見た時から思っていたこと

助けを呼んだとき、ユーノはどう考えていたのか

ここが管理外世界と言うことは知っていたはずだ

だからどうしても知りたかった

そして、俺は聞いた

《なんの関係もない奴を巻き込むかもしれないんだぞ?》

(わかってるよ!けれどこれしかないから…)

だから力を借りるのは一回だけだ、あとはボクだけでやる)

・・・実際はずっと借りてるんだがな

《そっか、ならいい。だがな・・・》

(???)

《一人じゃ無理だろ?》

(・・・)

《だから俺も手伝う》

(え!?)

《どうせしばらくはおまえの身体にいるしな

だからおれも手伝うよ》

( いいの? )

《あのな、一人じゃ出来ないことも二人なら出来るかもしれない  
だろ?》

この状態は、ある意味で“一人で二人”だからな・・・

(・・・ありがとう)

そしてユーノは最大限で念話をとばして言った

物語が始まるあの言葉を

(聞こえますか? 僕の声が聞こえます?)

(聞いてください! 僕の声が聞こえるあなた)

(ボクに少しだけ、力を貸してください!)

(お願い、ボクの所へ!!)

第一話 戻っていきなり戦闘だと!? (後書き)

zeilga「はい!てな訳で無印編第一話でした!」

鏡夜「やつと本編だな・・・」

zeilga「結構時間かかったね?」

鏡夜「結構じゃねえよ!?丸々二週間かかってんじゃねえか!」

zeilga「まあまあ、これから盛り上げていくんだから

・・・それよりも鏡夜?」

鏡夜「なんだ?」

zeilga「もしかしてユーノに興味があるのか?」

今回あんなに良い感じになっちゃって・・・もしかして!

」?

鏡夜 ( # ° 。 ) = ( # ) ( ) ・ ・ ・ z

eilga

鏡夜「ツギイツタラクロス」

zeilga「ガクガクガクガク・・・」

鏡夜「つたく・・・」

というわけで今日はこの辺で終わりだ!

次回も楽しみにしてくれよな!!じゃあな!」

感想待ってます!!

第二話 く主人公は遅れた頃に来てくる、て本当なんだな(前書き)

冬休み突入ううううううう!!!!

修正しました

第二話 〱主人公は遅れた頃にやってくる、て本当なんだな〱

前回のあらすじ!!

ふたたび転生完了!!

黒お化け、再誕!!

ユーノ ハ ネットワツカッタ!!

〱?????side〱

(お願いです!助けてください!!)

また頭の中に声が直接響いてくる

またこの声…一体何なの?

そんなことを考えながら私は今動物病院に向かっています

今日拾ったフェレットがいる場所なのけど…

さつきから頭の中に響いてくる声の子があそこに来るよう言っ  
てた

けれどなんだかおかしいな?

さっきから誰かとお話ししてるみたい

(お願いです、この声が聞こえているあなた！

ボクの所へ来てください！！)

最初こっぴど聞こえてきたと思ったたら

(あ、しまった！！)

て、ナニかに気づいて

(どどどどどっしょっ?)

て、とても慌てたら

(…うか！！すみません、場所は榎原動物病院です！お願いしま  
す！！)

最後はこっぴどってきた

よくわからないけど、二人(なのかな?)が今危ない目にあっ  
ているかもしれない

だからいそがなきゃ！！

…???.side end…

…お、俺の出番か

あのあとユーノが念話をとばしてから5分近くたつ

ったく、あのときはびっくりしたぜ

ん？なにがあつたかつて？？

んじゃ、回想どうぞ！

く回想シーンく

（お願いです、この声が聞こえているあなた！

ボクの所へ来てください！！）

おお、まさかこの名台詞を生で聞けるとは思わなかった

（お願いです…！！）

にしても、な〜んか忘れてるような・・・

ん〜っと……………



ポクポクポク・・・チーン!!

《おいユーノ！場所言わねえと誰もこねえぞ！？》

（あ、しまった！！）

いや声（念話）に出しちゃあまずいでしょ？

（どどどどどうしよう？）

《なんとかするから、そんなに慌てるな！

ここの病院の名前は“榎原”だ、それははやく伝える！！》

「すみません、場所は榎原動物病院です！お願いします！！」

あほかあああああ！？

《普通にしゃべんな！念話だろうが！》

「・・・え？あ、そうか！！

すみません、場所は榎原動物病院です！お願いします！！）

〜回想シーン終了〜

ってことがあったんだよ

ユーノって、あんな天然だったか？

それにしても未だに人の気配はなし

…このままだとやばくねえ？

ちなみに俺達は今なにしているのかというと…

(ねえ、ここなら大丈夫かな？)(ヒソヒソ)

《わからん、だがしばらくならやり過ぎせるだろ》(ヒソヒソ)《

(ところで、なんで小声にするの？)(ヒソヒソ)

《バカヤロー、普通に喋ったら黒お化けにばれるだろ!？》(ヒソ

ヒソ)

(けど鏡夜もボクも念話なんだから関係ないんじゃない？)(ヒソ  
ヒソ)

《…あ》

そう、今俺らは隠れている

しかもその場所は近くに捨ててあった段ボールの中

そして俺らは黒お化けの隙をついてはれずに段ボールの中に入  
れた

そして今、俺らは某蛇大佐のように息を潜めている

…といっても、俺は潜める必要がないから息を潜めるのはユーノだけだな

《ところでユーノ、あいつ（黒お化け）は今どうしてる？》

（え〜とね…大丈夫、まだ僕たちを見つけてはいないみたい）

《はあくよかった、けどいつになったら援護は来るんだ？》

（それはわからないよ、とりあえず最大限の範囲でとばしたけどまずここに魔法の才能を持つ人はいないのかもしれないし、いてもこの場所から遠く離れてたら時間がかかるしね）

《じゃあそれまでは時間稼ぎだな？》

（そういつこと）

そう思っていたら、黒お化けが出口に向かい始めた

《…あれってまずくないか？》

（うん、とつてもまずい…）

おいおい、外に出られたら終わりだぞ！？

《どうにかしてあいつをここに足止めできねえのか！？》

(え〜と、どうしたらいいんだ!?)

・・・そうだ、これなら!!(

そしてユーノが手をかざした瞬間周りの空気が変わった

《えっと、なにをしたの?》

(結界だよ、これならあいつはここから出れないはずだ)

《なるほどね、ところでユーノ》

(なに?)

《前から黒い物体が突進してきてるんですけど》

(え!?)

そう、結界をはった瞬間に黒お化けがこっちに気づいて今突進  
中!!--

(気づかれた!?)

《気づかれた》

(よく冷静にいられるね!?)

《驚きに馴れたからな・・・って、それよりもよける!》

ぎりぎりのタイミングでユーノはよけることに成功!!--

《気をつけるよ、あの突進が直撃したら色々な物が飛び出るから》

(怖いよその言い方!?)

そう言い合いながら俺らはふたたび黒お化けと向き合う

《さて、ここからどう逃げる?》

(正直言つと、あんまり体力が残ってないんだ。  
だから、出来ればもう一回隠れる)

《けど、ほとんどのものはあいつに壊されたぞ?》

(どうしよう・・・って、え!?)

ん?

《どうかしたか!?》

(今、誰かが結界に入ってきた)

《マジでか!?》

やっときたな!!

《だが今はこいつを...!?!?ユーノ、上に跳べ!!》

(え!?)

その瞬間、俺らは空中にとばされた

「ガハッ！」

《ユーノ！》

あの瞬間、ついでに気が揺るんでしまったな…

少し跳べたみたいだが、ユーノ（とおれ）はとばされていく

おいおい、このままじゃ…！

ポフッ

ってあれ？

どうやら地面に直撃することはなかったようだ

なして？

そして、ユーノがつつすらと目を開けて、俺の目に映ったのは…

「なにになに？ いったいなに！？」

めっちゃあせってる魔王もといなのはだった！

とりあえず一言いわせてくれ…

なんてご都合主義？

↳ユースサイド

何とか助かった・・・

て、それより！

「来て…くれたの？」

そう言っ僕は助けくれた子を見る

髪を両側でくくっている茶髪の女の子

歳はボクと同じくらいかな？

「しゃべった!？」

…あ、そういえばフェレットのままだった

そして、暴走体がこちらに追いついてきた

まずい!!

「ごめん、説明をするから今は逃げて!!」

「え!？えつと、わかった!」

そしてその子はボクを抱えたまま町中に走り出した

走る

走る

走り続ける

《おいおい、そいつのスタミナは底なしか!?!》

いや、そんなこと言われても・・・

それにしても、鏡夜の声はあの子には聞こえていないようだ

なんでだろう？

そう考えていたら

「え〜と、その…なにがなんだかよくわからないけど  
いったい何なの？なにが起きてるの!?!?」

そうだった、はやくお願いしないと!

「君には資質がある。お願い…ボクたちに少しでも力を貸して」

「資質?」

「ボクたちはある捜し物のためにここではない世界から来ました  
でも、僕たちの力だけでは思いを遂げられないかもしれない…」



だから、迷惑だとわかってはいるんですが資質を持った人に協力して欲しくて…」

そしてボクは彼女の前に降りる

巻き込むことがだめなことくらいわかってる、けど…

「お礼はします、必ずします！ボクの持っている力をあなたに使って欲しいんです！」

あれは絶対に封印しないといけないものなんだ！

「ボクの力を・・・魔法の力を」

＼ユ－ノ side end＼

「・・・魔法？」

やっぱりそうなるよな

いきなりファンタジーな事言われて信じれるわけねえか…

・・・って

《ユーノ!》

「(わかってる!)(あぶない、よけて!!)」

「きゃ!?!」

ある意味、あいつ(黒お化け)もKYだよな…

お話の途中だろうが!

そして黒お化けは突進の勢が強すぎて、地面にめり込んだ

ざまあみやがれ!!

…っと、話がずれたな

「お礼は、必ずしますから!」

おいおい、それ小学生に話す内容か?

「お礼とか、そんな場合じゃないでしょ!?!」

「ごもつともです!

「…どうすればいいの?」

「これを!」

そしてユーノは赤い宝石を渡した

レイジングハート

「・・・暖かい」

「それを手に、目を閉じて心を澄まして、ボクの言つとおりに戻して」

結構無茶な要求だよな、それ…

「わかったよ!」

いや、やんのかい!?

そしてなのはレイジングハートを握りしめた

「いい?行くよ!」

「うん!」

そして二人は契約の呪文を唱え始めた

「我、使命を受けし者なり」

「我、使命を受けし者なり」

「契約の元、その力を解き放て」

「えと、契約の元、その力を解き放て」

「風は空に、星は天に」

「風は空に、星は天に」

「そして、不屈の心は」

「そして、不屈の心は」

「この胸に！」

「この手に魔法を！」

「レイジングハート、セットアップ！」

「ー今ここから、全ての物語が始まるー」

第二話 主人公は遅れた頃に戻ってくる、て本当なんだな（後書き）

zeilga「てな訳で、無印編第二話でした!！」

鏡夜「おい、なんか俺の出番少くないか!？」

zeilga「後半から空気だもんね」

鏡夜「うるせい!、そついやおまえ今日から冬休みだよな？」

この小説どうすんだ？」

zeilga「どうする?って、書きまくるに決まってんじゃん!

鏡夜「いやおまえ一応受験生だろ!？」

zeilga「受験?ナニソレオイシイノ??」( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

鏡夜「…おまえとは一回じっくりたっぷり話し合う必要があるな」

zeilga「それでは今日はこのくらいで!

みなさんさような ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

ピシャン! (ドアを閉める音)

鏡夜「逃がすとしても?」

zeilga「なん…だと…!？」

鏡夜「さあ、OHANA SHIしよつか?」

zeilga「だが断る!！」

ガラッ (窓を開ける音)

シュタツ (窓から降りる音)

鏡夜「なに!？」

zeilga「はっはっは、わっらばっ!！」 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

二

鏡夜「あ、くそ!

えっと、次回も楽しみにしててくれよな！！  
てか待ちやガレええええ！！！！」

感想待ってます！！

第三話 く戦闘開始、そして新たな事実く（前書き）

久々投稿だぜ！！

投稿してそうなのですが、修正しました スンマセン

第三話 〽戦闘開始、そして新たな事実〽

前回のあらすじ!!

魔王、なのは参上!!

ユーノがお願い!!

レイジングハート、起動!!

~~~~~

〽なのはside〽

“スタンバイレディ、セットアップ”

「な、なんなの!?!」

「イメージして!」

「イメージ?」

そんなこと言われてもなにをイメージすればいいの!?!

「バリアジャケット、君を守ってくれる服みたいなものです!」

「服!?!えっと、じゃあとりあえずこれで!」

そして私はさらに強い光に包まれた

くなのは side endく

《まぶしっ!》

なんツー光だ!?

(大丈夫?)

《大丈夫? って、おまえは平気なのか!?》

(うん、大丈夫だけど?)

《いやいやいや、なんで!?!?》

普通にユーノは目をあけてるけどさ…

俺からしたらまぶしいぞ、かなり!

…と、ようやく光が収まってきたか

そして光の中から現れたなのは

は白を基調としたバリアジアジャケットに包まれていた

…なんであるの一瞬でそこまでイメージできるのかねえ？

それにしても、さっきから気になってんだが…

なんで俺の声（念話）無視してんの？？

《おい、ユーノ》

（なに？）

《俺の念話ってあの子に聞こえているよな？》

（ううん、多分聞こえてないよ）

《なぜに！？》

（わからない、来てくれたということとは

多分ボクの念話は聞こえたんだろうけど…ナニカ違いがあるのかな？）

《違い、て言っても念話に種類なんてあったっけ？》

（種類もなにも、この身体じゃ常識が通用しないような気がするよ。

なぜかこの念話もあの子に聞こえていないみたいだし…）

《ハハハ・・・そりゃそうだ》

二人でひとつの身体を共有なんて、どこの二次作品だっつーの
！！

・・・あ、これが

《にしても違いねえ〜…っておい！来るぞ！！》

(え、ホントだ！) 「来ます！！」

「きゃっ！！」

“プロテクション”

ふう、なんとかレイハが守ってくれたか

それにしても、やっぱり俺の念話は通じないか・・・

ユーノの時は普通に通じたのに、なんでだ？

「どうしたらいいの！？」

「そいつに普通の攻撃は通じません！封印をしないと！！」

「封印って、わたし呪文知らないよ！？」

あれ、なんかデジャヴ？

「心を澄まして、心の中にあなたの呪文が浮かんでくるはずす

「！」

「ええ！そんなこと言われても・・・全然わかんないよ!？」

ああ〜もう!〜!

《【とりあえず一回信じてやってみろ!〜!】》

∴あ、しまった。俺の念話ユーノにしか聞こえないのに・・・

「今度はなに!〜?この声は誰なの!〜?」

なにい!〜?

「え!〜?」

「えっと、どうしたの?」

《【「俺(彼)の声が聞こえるの(です)か!〜?」】》

「今度は重なった!？」

《【「いいからはやく答えろ(てください)！」】》

「ええつと…うん、聞こえる」

はあ!？

いやいや、さっきまで全然聞こえてなかったじゃん!

なんで!？

と、とりあえずユーノに!

《なあ、これどういう事だ!？》

(ボクにもわからない…ねえ鏡夜

僕に話したのと、あの子に話したのは同じ方法?)

そんなこと言われても、俺なんかしたっけ?

《よくわからん、それにこの会話は相変わらず聞こえてないよう
だしな》

さっきからユーノはなのはを見ているがなのは
は?マークを頭に浮かべてる

…うん、絶対聞こえてない

聞こえたときと聞こえてないときの違いか……

…ん？もしかして???

よし、実験してみよう。まずは念話の要領で……

《俺の声が聞こえるか?》

……

…ものすごく無反応だな

(やっぱり偶然だったのかな?)

《いや、本題はこっちだ》

(?????)

次は普通に喋る感じで……

《【俺の声が聞こえるか?】》

「えっと…うん、聞こえるよ?」

(ええ!?)

おっしゃ、実験成功!!

やっぱり通じたぜ!!

「えっと、あなたはだれ？」

おっと、また忘れるところだった

《【そついや俺もユーノも自己紹介がまだだったな…藤堂鏡夜だ】

》

「ユーノ・スクライアです」

「高町なのはだよ！」

《【そうか…じゃあとりあえず二人とも目の前のことに集中しようか！】》

「「あ、忘れてた」」

《【いや忘れんなよ！？】》

全く、黒お化けがなにもしてこなかったからいいものを…

「けど、なんで攻撃してこなかったんだろうね？」

「確かに、攻撃を当てることは出来たと思うけど…」

《【ご都合主義、ってやつだ】》

「「しっしっしゅぎっ、」」

《【まあ気にするな、今はあいつを何とかしねえと】》

「えっと、さっきみたいにすれば良いんだよね？」

「はい、そうすればあなたの封印の呪文が浮かんでくるはずですよ」

《【だがそれを黒お化けが許すとは思えねえ…ユーノ、身体はまだ動くか？】》

「大丈夫、動くよ」

「えっと、どうするの？」

《【俺達が時間を稼ぐ、その間に封印をすましてくれ】》

「けどそのケガじゃ無理だよ…！」

「大丈夫です！倒せはしないけど時間は稼げますから」

「けど…」

《【心配してくれるなら、出来るだけはやく封印してくれよ？】》

「僕たちなら大丈夫ですよ！高町さんは封印に集中してください！」

「…うん、わかった！気をつけてね…！」

「はい…！」

《【封印は頼んだぜ…！】》

そして俺達は黒お化けの目の前に立った

《おまえも強がりだねえ…ホントはきついくせに》

(きついけど、これ以上高町さんに負担をかけるわけにはいかな
い。

出来るだけ僕らで軽くしないと…)

…こいつ本当に子供か？

漫画見たときも思ったけど、

こいつらの精神年齢めちゃくちゃ高いよな…

《わかった…じゃあ早速、始めますか!-!》

(うん!-!)

さあ…相手になってもらうぜ!-!-!

第三話 〽戦闘開始、そして新たな事実〽（後書き）

zeilga「てな訳で、無印編第三話でした!!」

鏡夜「さて、作者：なんでこんな更新が遅れたんだ？」

zeilga「えつと〜・・・」

それには山よりも高く、海よりも深い事情がありましたな

(; ^ ^)

鏡夜「ほう、聞かせてもらおうか？」

zeilga「実は川からが桃g「あほかっ!!」イテッ!!」

鏡夜「嘘つくならもうちよいましましなうそつけ!

それに、こつちで調べさせてもらっている!!」

zeilga「なに!!??」

鏡夜「確かに年末辺りは宿題とかで忙しかったようだが・・・

大晦日から夜はいつもヒマだったようだな??」

zeilga「何故、そこまで知っている!？」

鏡夜「んなことはどうでもいい!!」

何故その時間に書かなかった!？」

zeilga「・・・色々あったんだ!!」

鏡夜「じゃあ聞かせてもらおうか・・・

大晦日の夜はなにしてた？」

zeilga「ガキ使見た!!」

鏡夜「じゃあ正月は!？」

zeilga「ウルトラマンDASH見た!!」

鏡夜「じゃあ2日!!」

zeilga「とんねるず!!」

鏡夜「なら3日は!？」

この日は一日中あいてただろうか!？」

zeilga「朝からよゐこの無人島見てて

それで疲れて午後はねむった!!」

鏡夜「……念のため聞こう。受験勉強は？」

zeilga「するはずがないだろう!!」

鏡夜「一度地獄に行つてこいやああ!!!!!!」

zeilga「ぎゃああああああ!!!!!!」

感想待ってます!!

第四話 〽時間稼ぎ、そしてやっと戦闘終了〽 (前書き)

少し長めになっちゃったんで、二つに分けました

第四話 ～時間稼ぎ、そしてやっと戦闘終了～

前回のあらすじ!!

なのは、変身!

俺の言葉(念話)が通じた!

相手になってもらうぞ、黒お化け!!

~~~~~

《【次は右から来るぞ!!】》

「うん!!」

はいみなさんお久しぶり、鏡夜です

ただいま俺は黒お化け相手に時間かせぎ中

しかしユーノはケガをしていて全力で動くことは出来ない、

てなわけで・・・

・俺が身体能力のリミッターを解放して黒お化けの動きを先読みする

・それを素早くユーノに念話で伝える

・ユーノ、なんとか黒お化けの攻撃をよける

とまあ、こんな事をさっきからやってるわけですよ、はい

にしても、まだ2段階しか解放してないのに

相手の動きがびっくりするくらいわかるんだが・・・

これ全部解放したらどうなるんだ？

・・・といかん、いまは相手に集中しなければ

《【次は左だ、さっきよりはやいぞ！！】》

「わかった！！」

・・・なんとかよけたな

「はあ、はあ、はあ・・・」

…ユーノも限界が近いな

なのはに感づかれないよう、念話で話すか

《大丈夫か？》

(正直言うと、あと10分くらいが限界かも…)

まずいな、ここからどうするべきか・・・

「ユーノ君、鏡夜君、準備できたよ!!」

おっしゃ、まにあった!

「ご都合主義バンザイ!!」

《【聞こえたな、ユーノ!!】》

「うん!」

そして黒お化けの攻撃を思いっきり後ろに跳んでよけた

そしたら黒お化けはねらいをなのはに変え突進する

だが甘い!!

“プロテクション”

おし、あいつの動きが鈍った、今なら!!

《【「いまだ(です)!!」】》



「リリカルマジカル!!」

おっしゃここは俺も言うぜ!

《【】封印すべきは忌まわしき器、ジュエルシード!...!》

さあ、これで終わりだ!!

「ジュエルシード、封印」

“ シリングモード、セットアップ ”

そしてレイジングハートから光る布みたいなのが出て、  
黒お化けの身体を包んだ

“ スタンバイ、レディ ”

「リリカルマジカル

ジュエルシードシリアル???、封印!!」

“シーリング”

そして、黒お化けは光に包まれ、封印された

そして、激しい光の中、

ユーノに聞こえないくらいの大きさで、俺はつぶやく…

【光る布に思いつきり貫かれてるけど、普通にエグいよな・・・】

第四話 ー時間稼ぎ、そしてやっと戦闘終了ー（後書き）

zeilga「はい、てな訳で無印編第4話でした!!」

鏡夜「今回は俺ほとんど活躍してなかったな・・・」

zeilga「ただサポートしてただけだからね」

鏡夜「うるせい!・・・にしても作者

なんかどどん設定が複雑になっっているが大丈夫なのか？」

zeilga「大丈夫!・・・とは言い切れない」

鏡夜「信用ねえなあ、おい!？」

zeilga「読者のみなさんならわかってくれるさ!!」

鏡夜「いやそうとも限らねえだろ!？」

zeilga「ふざけるな!読者を信頼してこそその作者だ!

俺はこれを読んでくれる人たちを信じて書き続けるぞ

!!!」

鏡夜「お、おう・・・」

zeilga「じゃあ今日はここまでで、次の話は結構早いと思うから

楽しみにしてくれよ、またな!!（なんとかなったか…）

」

鏡夜「またな!!（なんか違うような・・・？）」

第五話 く状況把握、つて大事だよね（前書き）

ああ・・・文才欲しい…

第五話 状況把握、つて大事だよね

前回のあらすじ!!

ただいま時間かせぎ中!

ご都合主義バンザイ!

ジュエルシード、封印!!

~~~~~

くなのはside

・・・え、今回はわたしからなの!?

えっと、みなさんこんばんわ。高町なのはです

私たちは今公園に向かっています

わたしの隣で一緒に歩いている男の子が鏡夜君です

・・・えっと、よくわからないかな？

じゃあ、回想シーンをどうぞ!!

～回想シーン～

目を開けてみると、さっきのお化けはいなくなってた

「・・・あ

なんだろう？向こうでナニカが光ってる

近づいてみるととても青い宝石が転がってた

「・・・きれい」

「これがジュエルシードです。レイジンググハートでふれて」

え、あのお化けがこのきれいな石なの!?

驚きつつ、私はジュエルシードに近づくと

そしてジュエルシードはレイジンググハートにふれた瞬間
溶けるように吸い込まれてしまった

“ シリアルナンバー、???? ”

「え？」

そう言った瞬間、私の身体が光に包まれたと思ったら
ここに来たときの服になって

レイジングハートは

私の手のひらに赤い宝石の状態で落ちてきた

「あ、あれ・・・おわったの？」

「はい、あなたのおかげで・・・」

な、なんだか照れるの・・・

「ありがとうございます・・・」

「ユーノ君!？」

《【おい、ユーノ!!・・・はあ、寝てやがる】》

「え？」

【多分、さっきまでの緊張が解けて安心したんだろ...】

ならよかった・・・て、あれ？

「今、鏡夜君がしゃべったんだよね？」

【なに当たり前のこと聞いてんだ？】

え、なんでなの??

「ユーノ君から声が聞こえたの・・・」

【え?・・・まじだ!!】

なにがどうなってるの!?

「え?え???どついつことなの!??」

【ん〜と…これからのことも含めて話すから、とりあえず場所を
変えよう

「ここじゃ話せないこともあるからな」

「う、うん・・・じゃあ、いい?」

【わかった。と、そのままに・・・】

「???.?」

そして鏡夜君(?)はいきなり自分の右手で身体に触れたの

なにするんだろう??

パン!!

訳がわからないよ〜！

【混乱してるとこ悪いが、早く行くぞ！】

なんで、急に焦りだしたの？

「そんなに急いでどうしたの？」

【誰かさんの大声で、こちら辺の奴が目覚めますかもしれないだろ！】

え、誰かさんって？

誰かさん さっき大声を出した人 わたし

・・・あ

「え〜つと、その・・・ごめんなさい！」

【・・・そっちには誰もいないんだが】

ええ！？

いつの間にそっちに行ったの！？

【まあいいか、とこるでこころ辺で話が出る場所ってあるか？】

「えっと、それなら公園がちょうど良いと思うの」

【公園ね、ならそこに行くぞ】

「う、うん」

なんだかユーノ君とは全然違うの……って

「おいていかないでよ〜!」

〜回想シーンend〜

……といふことがあったの

それにしてもさっきからわからないことばかり

むう〜……公園に着いたらお話するの!!

〜なのはside end〜

ゾワッ

な、なんだ!?

今トンでもないさむけを感じたぞ!?

・・・あ、どうも。鏡夜です

はい
いや、ね。隣のなのはから一瞬すっげえさむけがしたんですよ、

・・・まさか、O H A N A S H Iフラグ建てちゃった?

いやいやいやいや、俺なにもしてないぞ!?

なのはの前で妙な事なんて・・・

・魔法の存在を教える

・フェレットから人間に変身

・の時、解く方法がわからずイマジンプレイカーを使用

……めっちゃしてるじゃねえか!?

いやだ、O H A N A S H Iはしたくない!!

っと、もう公園に着いたのか

【とりあえず座れ、今日でだいぶ疲れたろ?】

「う、うん……ところで鏡夜君、聞きたいことがあるの」

【お、おう……なんだ?】

お話でありますように! O H A N A S H Iじゃありませんよ……!

「鏡夜君はユーノ君なの?」

【……はい?】

今この子はなにをおっしゃった?

【いやいや、それはない。俺とユーノはもともと別人だよ】

「もともとして?」

やばい、墓穴ほってしまった!

【え〜と、それはだな・・・】（ん、ここは・・・？）「と、起きたか」

「ユーノ君？もう大丈夫？」

「（あ、高町さん…はい、もう大丈夫です…ってあれ？からだか動かない…）」

【そりゃあ俺が今この身体を使っているからな】

（鏡夜、どういうこと!?!）

なんで体内念話（俺勝手に命名）なんだ？

ああ・・・ばれないように、ね

【俺らが同じ身体使っていることはバレてるから普通にはなせよ変わった理由はおまえが気絶したら勝手に表に出てきた】

（どういう事なのかな？）

【まだそこまではわからん…だが、どうやら

この身体の使用権は表に出てる奴が寝たり気絶したりしたら変わるみたいだな】

「ええつと・・・なにを話してるの？」

・・・今考えたら、今の光景って俺が独り言してるみたいじゃねえか

うわ、かなしっ!!

【ちょっとこの身体についてだな、まあ気にするな】

「（それよりも高町さん、今回はすみませんでした。あなたを・
）」

「なのは、だよ」

「（え？）」

「高町さん、じゃ他人みたいで嫌だな。だからなのは、って呼んで？」

「（はい、けどなのはさんを巻き込んでしまいました・・・）」

なんか、ユーノが落ち着く姿を簡単に想像できたな・・・

「あ、その・・・」

なんか、なのはも少し悲しい顔になった

・・・正直、メッチャ気まずい

「えっと・・・多分、わたしは平気だよ

そうだ、二人とも、からだケガしてるんでしょ？とりあえず場所変えない？」

いや、さっき場所変えたばっかなんだけど!?

・・・いや、言わない方がユーノにとって良いかもな

「(どこにするんですか?)」

「わたしの家だよ。あとの話はそれから!」

上手くはぐらかしたな、だが・・・

【それについてはひとつ問題があるぞ。なのは】

「え、なに?」

【俺らの今の見た目だ】

「あ、ホントだ・・・」

「(鏡夜、変身魔法を解いたんだ?)」

「え、ユーノ君も人間だったの!?」

「(はい。あの格好になれば傷をいやせるので・・・
なるほど、だから傷が完全に治っていなかったんだね)」

【・・・面目ないです】

「よくわからないけど・・・」

もう一回フェレットさんの格好になれば良いんじゃないかな?」

【まあいちどやってみるか・・・ユーノ、変身魔法ってどうやる

んだ】

「うん、けど、出来るかどうかわからないよ?」

【まあ、物は試しだ、教えてくれ】

「わかった。じゃあまず、かわりたい格好をイメージして」
イメージね・・・

見た目はフェレットで、色はおつど色・・・よし

【大体できたぞ】

「(大体じゃダメだ。くつきりとイメージしないと)」
なんかめんどくさいな・・・

目を閉じた方が集中できるかな・・・こうか?

【できたぞ】

「(ならそれを薄い服みたいにして自分の身体にまとうイメージをする)」

難しいな・・・こうか?

【どうだ?】

「うん、さっきと同じ格好だよ」

お、嬉しい」と言ってくれるね、なのは

【おう、上手くいったな・・・って、どうした、なのは？】

「うん、眼が赤色のままだよ？あときは緑色だったけど・・・」

【まま、ってことは、人間の時も眼は赤色だったのか？】

「うん、そうなの」

【へえ、ユーノって眼が赤色なのか。珍しいな？】

念のためユーノに聞いておこう

「いや、僕の目の色は緑色だよ

鏡夜は赤色じゃなかったの？」

【いや、俺は黒色だったな…まあいつか、どうでもいいし】

「（「いいのー!？」）」

【いいの】

「じゃあ、いつか？」

【おう、とその前に・・・】

「（「包帯を外してどうするの?。」）」

【右手に巻いておくのさ】

「え、そこもケガしてるの!？」

【いや、違う。】

「(じゃあどうして?)」

【まあ、そこら辺もなのは家で話すさ。じゃあ行くつぜ】

「うん、じゃあ行くつぜ!」

そう言った瞬間、なのはは俺を抱きかかえて……って

【なぜに!?!】

「だって、まだケガしてるんでしょ?無茶しちゃダメだよ?」

【お、おう……】

まあ、楽しいか・・・

第五話　く状況把握、つて大事だよねく（後書き）

zeilga「はい、てな訳で無印編第五話でした!!」

鏡夜「なあ、なんでおまえは金属バットを持つてるんだ？」

zeilga「鏡夜！おれはおまえをゆるさない!!」

鏡夜「なぜに!？」

zeilga「なのは手の中がそんなに気持ちよかったか、ああ!？」

鏡夜「待て、それはおまえが書いた事じゃねえか!？」

zeilga「そんなことはわかってる!」

鏡夜「じゃあなんで!？」

zeilga「嫉妬だ!!!!」

鏡夜「えらく直球だな、オイ!？」

zeilga「くたばれやああああ!!!!」

くしばらくお待ち下さいく

鏡夜「はあ、はあ、はあ……」

zeilga「……」(ピクピク)

鏡夜「人つてのは嫉妬だけでここまで強くなれるものなんだな……
(汗)」

zeilga「フ、いい気になるな……いずれ第2第3の俺がおまえを……」

鏡夜「うるさい!!!!」

zeilga「んぎゃっ!!……」(ガクッ)

鏡夜「つたく……とこれを読んでくれているみなさん

次回も楽しみにしてくれよ、じゃあな!!!!」

感想待ってます!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1004z/>

魔法少女リリカルなのは ~転生じゃない?なら憑依??...え、どっちでもな

2012年1月14日07時49分発行